

書 燈

2024年 No. 58



こうかく つか 高閣に束ぬ



大橋 弘範
共生システム理工学類

若者の活字離れが叫ばれる昨今、若者の範疇から解脱した私は、理工学類の中でもトップを争うほどの《活字中毒者》だと思えます。いや、そう言っては中毒者に失礼かもしれません。さしずめ《活字亜中毒者》でしょうか。この中毒者の一つの症状に、本をどんどん買ってしまいうという現象があります。現代社会、この忙しい世の中で読める本の量は限られますから、必然的に《積ん読^{つんどく}》状態になります。速読できない自分が恨めしい、と常々思います。

本稿の執筆依頼を受けて、さすがに巻頭言でおかしな文章は書けない、と積ん読していた2冊を取り出して読み始めました。宮崎哲弥著『教養としての上級語彙』と『教養としての上級語彙2』（いずれも新潮選書）は、自身の語彙力の無さを自覚して購入したものです。

世間一般の大学教員のイメージは、難しい語彙を使って難しい学問をやっている、というものでしょう。しかし、学生に対してはわかりやすく平易な文章を用いて教育する必要がある、そのギャップに認識の隔絶を感じます。平易と難しいは両立するのだと考えながら読んでいるうちに気づかされました。

「これを読んでも一朝一夕には語彙力は上がらない」
はたして、この2冊は再び積ん読の餌食となりました。

積ん読は未読の本がスペースを取る、という点でかな

りのマイナスです。一方で、読みたい時にすぐ手に取れる場所にあり、何があるか背表紙が見える状態で積ん読していること、これだけでも脳により効果があると主張する研究者もいます。決して都合がよい言説だけをピックアップしているわけではありません（笑）。そんな言い訳をしながら本を買い続けた結果、自宅と研究室は当然のごとく本で埋もれることとなりました。そこで始まったのが断捨離です。不要なものを断ち、不要なものを捨て、物にとらわれずに執着から離れて生きていこうとするこの考え方は、今の私にはピッタリです。昔、私が学生るとき研究のために訪れた大学の大御所教授の研究室は、応接セットとパソコン関係だけのシンプルな部屋でした。まさに目指すべき理想の部屋なのです。しかし、この断捨離は積ん読ユーザーや活字亜中毒者にとっては地獄のような作業です。遅々として進みません。

私が断捨離と積ん読の狭間に悩んでいる頃、今年度の本学図書館では、農文協図書館からの大量の寄贈図書蔵書への選定作業も大きく進み、非蔵書となった本の譲渡会というビッグイベントがありました（p.3参照）。図書館関係者の方々による蔵書・非蔵書の選定作業は、断捨離にも似た気が遠くなるような作業であり、その努力と献身には頭が下がる想いです。

譲渡会は、活字亜中毒者にとってまたとないイベントであり、譲渡会場に赴いてはワクワクしながら本をもらってくることを何度も繰り返してしまいました。断捨離中に何度も本をもらってくる…。そう、これこそ新たな積ん読ワールドへの誘い^{いざな}です。置く場所に困って《高閣に束ぬ》ことの無いよう、譲渡本を教育・研究と自身の豊かな生活・人生に活かしていこうと考えています。

…と、偉そうなことを書いてしまいました。はてさて10年後の断捨離と積ん読の勝負は如何に。

故 吉原泰助 名誉教授の蔵書受入について

附属図書館では、故 吉原泰助 名誉教授のご遺族より、1760 年から 1900 年代半ばまでの洋書を中心とした 336 点の資料をご寄贈いただき、令和 6 年 7 月までに当館蔵書としての登録が完了しました。このことについて、8 月 7 日（水）に、本学の定例記者会見で報告するとともに、関係者をお招きし、寄贈資料のお披露目を行いました。

■寄贈資料のお披露目

日時：8 月 7 日（水）12:00 ～ 12:30

場所：図書館本館 1 階 アリアcommons1（プレゼンテーションエリア）

1. 附属図書館長挨拶

菊地芳朗附属図書館長より、受入の経緯についての説明や、ご遺族への謝意が伝えられました。

※あいさつ全文はホームページ 2024/08/27 のお知らせに掲載

2. 吉原文庫の概要

寄贈いただいた資料のうち、当館の貴重図書として受入する 96 冊について、本学経済経営学類の岩本吉弘教授より解説をいただきました。

吉原先生の研究内容との関わりと共に、18 世紀のフランスの重農主義に関する文献のご紹介や、また、古典派経済学者のシモン・ド・シモンディの著書については、網羅的に収集され、充実したコレクションとなっている点などをご説明いただきました。

※資料は、ホームページ 2024/08/27 のお知らせに掲載



3. ゼミ生代表挨拶

ゼミ生を代表して、片倉和夫様からご挨拶をいただきました。吉原先生からのご指導についての思い出や、出版社の立ち上げ時にご相談されていた内容などをお話いただきました。また、吉原先生が生前より図書館への蔵書の寄贈を考えられ、資料を整理されていたことについても伺いすることができました。

4. 記念撮影

最後に、関係者で記念撮影を行いました。



（左から）
菊地附属図書館長、
佐野副学長、片倉様、
ご遺族のみなさま

お披露目の終了後には、新館 4 階貴重図書室へ吉原文庫が設置されました。

農山漁村文化協会図書館の蔵書受入について

農山漁村文化協会図書館（以下、農文協図書館）は、農学・食・環境の分野を中心にその周辺分野の資料を所蔵する専門図書館で、平成 27 年 11 月の施設移転に伴い閉館しました。その際、守友祐一元福島大学教授のご尽力により、食農学類の開館準備及び震災復興支援の目的で、その蔵書を本学へご寄贈いただくことになりました。

蔵書は大きく分けて、「一般資料」と「個人文庫」に分かれていましたが、当館では一般資料の約 5 万点を、また、食農学類では個人文庫の一部を譲り受けることとなりました（農文協図書館からの寄贈の詳細や食農学類における近藤文庫受入に関しては、本学林薫平教授の文献^{注1}を参照のこと）。

図書館での受入れについては、平成 31 年 3 月 6 日の本学の定例記者会見において、その時点での受入状況や作業の様子などを報告しており、その後一時期作業が中断していましたが、令和 6 年度に再開し、選定や受入などの作業を継続しています。

◆選書・受入方法

図書館で受入することになった一般資料については、場所の制約があることや収書方針に沿った受入になることから、すべてを蔵書とするのは難しい状況だったため、選定しながら受入を行うこととしました。約 1,000 箱の段ボールを大型のトラックで 4 回に分けて運び込み、20 回を超える館内のワーキンググループで検討しながら、以下のとおり作業を進めました。

- ・図書館の所蔵資料と重複しているもの、新しい版が図書館にあるものは受け入れをしないこととした。
- ・伝記、民俗、環境、食品、産業、農業、園芸、畜産、林業、水産業などの分野を受入対象とし、食農学類の教員と図書館職員による選定を行った。
- ・受入対象外とした分野についても、全学の教員に対してリストによる選定を依頼した他、図書館職員も必要に応じて選定を

- 行った。
- ・図書館で受入しない一部の統計書類は食農学類へ譲渡した。
- ・児童書や絵本については、一部を福島県立図書館へ譲渡した。
- ・本学の古本募金の手続きを行ったが、条件があわず途中で断念することとなった。
- ・受入しない資料のうち、他機関でも所蔵がないことが確認できた資料は、国立国会図書館へ寄贈した。

◆譲渡会（令和 6 年度 第 1～5 回）

受入しない資料については、農文協図書館の蔵書印等に消印をした上で、令和 6 年度に 5 回に分けて、無料の譲渡会を実施しました。

学内関係者だけでなく、学外者も含めて案内を行い、以下のとおり 4,350 名の来場者（のべ人数）があり、約 3,500 冊が個人へ譲渡されました。



	日時 (R6 年度)	内 容	来場者数	譲渡冊数
第 1 回	11/20 (水) ～ 12/2 (月)	野菜、花、キノコ、盆栽、園芸、郷土料理、海外の料理についての本、レシピ本など	1,230	1,166
第 2 回	12/4 (水) ～ 12/17 (火)	農業・農学に関する雑誌や研究報告書、専門書、事例集、論集など<重複資料・ISBN なし>、雑誌	879	476
第 3 回	12/18 (水) ～ 1/10 (金)	農業・漁業・経済・畜産・食・食品科学・健康・栄養などに関する本、農業に関する雑誌<重複資料・ISBN あり (図書)>	776	661
第 4 回	1/20 (月) ～ 1/31 (金)	農業・畜産・林業・食品・健康法などに関する本、農業や農村、食に関する小説、詩、エッセイなど	903	693
第 5 回	2/3 (月) ～ 2/14 (金)	農業・園芸・食品・健康法・料理などに関する本、児童書・絵本、農業に関係する統計資料、白書、市町村史・社史など	562	466
合 計			4,350	3,462

令和 7 年度においても、準備ができ次第、第 6 回目（最終）の譲渡会を開催予定です。

今回は、資料の受入や譲渡等についての記録となりますが、最終的な冊数が確定した際に、あらためて報告を行う予定です。

注 1) 林 薫平, 福島大学食農学類における旧農文協図書館・近藤康男文庫の継承と活用に向けて: 戦間・戦中・戦後・高度成長期を貫く「近藤農政学」の視座と福島県農村の震災復興への示唆. 農業史研究 = The journal of agricultural history. 2022, 56, p.27-37

図書館のホームページをリニューアルしました

図書館からの情報やサービスの案内を、より見やすく使いやすいものにするため、2024年10月9日（水）に、当館のホームページを全面リニューアルしました。

主な変更点

- レスポンスデザインにより、スマートフォンからも見やすくなりました。
- 全体の構成を見直し、掲載情報が探しやすくなりました。
- お知らせが見やすくなりました。
- 電子資料関係の案内を整理しました。
- 館内写真や企画展示の内容を掲載し、館内の様子がわかるようになりました。施設の予約方法等も掲載し、館内写真からリンクして確認することができます。
- 震災時の対応の記録や、関連する資料収集についてまとめたページを新設しました。
- 書燈（図書館報）、メールマガジンなどの当館発行物の情報が見やすくなりました。
- 学外の方への案内を見直し、必要な情報を追加しました。

旧ホームページ



新ホームページ



スマートフォン用

また、11月末までの期間でアンケートを行うなど、みなさまからご意見をお伺いして、改善に努めています。

福島大学校友会からのご支援による資料整備について

「学生教育支援環境等整備事業」として、令和3年度より継続して資料購入をご支援いただいています。この事業により、今年度は以下の資料を整備することができました。

- 学術雑誌「Nature」2025年
- 福島民友新聞 Web版「みんゆうデジタルアーカイブ」
- 人文社会科学／自然科学／農学など様々な分野の参考図書／電子ブック
- 地域新聞の製本

これらの資料は、電子・冊子の形態を問わず、全てOPAC（蔵書検索システム）から検索することができます。

自動貸出返却装置（ABC-T1s）が利用できるようになりました

令和6年1月18日より、新しく「自動貸出返却装置（ABC-T1s）」を2Fゲート前に設置し、学生・教職員の皆さんがセルフで図書の「貸出」・「返却」・「貸出延長」の手続きをできるようになりました。

予約の入っている図書や延滞資料などはカウンターで手続きをする必要がありますが、それ以外の通常の貸出・返却やカウンターの混雑時などにぜひご利用ください。

なお、既存の2台の装置（ABC-II、ABC-T1）は、故障等のため長らく休止状態となっていました。今回、福島日産自動車株式会社とのネーミングライツ・パートナー事業による契約料を活用し、最新のものに更新することができました。「フクニチャージ図書館」の愛称と共に、親しんでご利用ください。



書庫の集密書架の修繕が完了しました

震災などの影響により不具合の出ていた書庫内の集密書架（書庫 2D 及び地下書庫）について、平成 30 年度以降、修繕工事を行ってきましたが、令和 7 年 2 月末でその全てが完了しました。

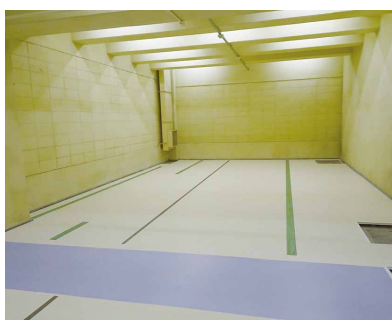
集密書架は、通常の固定書架よりも同じ床面積で収蔵できる冊数が多く、図書館の約 100 万冊の蔵書やこれから増えていく資料を保管するために必要な設備です。

これまで、動きにくい、書架がさびているなどの不具合や、床に段差があり危ない場所もありましたが、現在は書架や床の一部も新しくなり、安全に動作しています。また、最新の制震・耐震性能が備わった書架を導入したため、書庫内で地震が起きた際の対策にもなっています。

地下書庫の集密書架改修工事の様子 (令和 7 年 2 月完成)



工事前
(黒のレール部分が盛り上がっている)



床の底上げ工事後
(凹凸がなくフラットな状態)



書架が設置されて完成

図書館でイベント開催・展示ができます！

図書館は、調べ物や学習で利用される方も多いと思いますが、それだけでなく、大学のどなたでもご利用いただける場所として、学習や研究に関するイベントを開催したり、授業やサークル・プロジェクトなどで制作された作品の展示を行うことができます。多い日には一日 1,000 人以上の来館者がありますので、よりたくさんの方に参加・見ていただきたい企画にぜひご活用ください！

※現在開催中の展示や過去の展示については、ホームページでも紹介しています。

(図書館について → 企画展示等 をご覧ください)

イベントや展示を希望される方は、図書館 2F カウンターまでお気軽にお問い合わせください。
たくさんのご利用をお待ちしております。



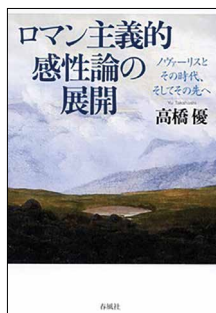
ロビー中央での展示



アリアコモンズ1でのイベント開催

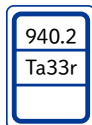
※机や椅子のほか、展示ボードやピン・フック、イーゼル、展示ケースなどの貸出も可能です。

学内教員著作寄贈図書



ロマン主義的感性論の展開 ノヴァーリスとその時代、そしてその先へ

高橋優著
春風社, 2023.3



資料ID: 123000163

本書は、主に筆者の博士論文提出(2008年)の後に書かれた論文をまとめ、一冊の本にしたものです。本書の目的は、ノヴァーリス(1772-1801)を中心とするドイツ・ロマン主義の活動を「感性の復権」と位置付けてその全体像を捉え、現

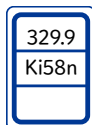
代的意義を見出すことにあります。ロマン主義の時代は、諸科学が細分化され統一を失い、フランス革命戦争でヨーロッパの政治秩序は混乱し、ローマ教皇がその巻き添えで亡くなってしまうことで教会の権威も失墜してしまうという、あらゆる意味で危機的状况が続く時代でした。それでもノヴァーリスは現実逃避せず、危機的状况においても常に理想を求め続けることを自らの文芸活動、思索活動の使命としました。絶望的時代においてもどこかに希望を見出さなくてはならない、そのために必要なのが「感性」なのです。これは「フクシマ」の事故や「コロナ禍」といった混乱を経験している我々がいかに「現在」において希望を見出すかという課題に直結するテーマです。

(人間発達文化学類／高橋 優)



入管を問う 現代日本における移民の収容と抵抗

岸見太一、高谷幸、
稲葉奈々子著
人文書院, 2023.6



資料ID: 123009570

「不法滞在」や「不法就労」という言葉を聞くことが増えてきました。他方で、違反者が収容される日本の入管施設では死亡事件が繰り返し起きています。本書は、入国違反のルールを取り締まりに関わる入管行政について、そのあり方と背後にある受け入れ国の人びとの考え方の枠組みを、そもそもから問い直すことを目指し編まれました。

社会学者の稲葉奈々子さんは、「不法と合法の境界領域」における許可なく暮らしている人びとの生活をインタビュー調査から明らかにします(2章)。同じく社会学者の高谷幸さんは、入管の権力を絶対視する考えが植民地統治に起源があることを指摘します(3章)。岸見は、許可なく暮らすことは決して「悪い」ことではないと政治理論から論じます(7章)。

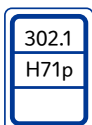
本書で特に焦点をあてたのは、許可なく暮らす人びとが権利を求め闘う抵抗運動です(1・6章)。抵抗は街頭だけでなく収容所でも行われます(5章)。ですが、認識的不正義と呼ばれる無意識のバイアスのために、これらの抵抗は無視されてしまう恐れがあります(4章)。本書が、入管問題を深く考える手がかりとなれば嬉しく思います。

(行政政策学類／岸見 太一)



パインと移民 沖縄・石垣島のパイナップルをめぐる「植民地化」と「土着化」のモノグラフ

廣本由香著
新泉社, 2024.2



資料ID: 123064486

パイナップルとはいったい何なのか——。
本書は、そんな素朴な疑問から出発し、その「答え」を探し歩いたモノグラフである。沖縄県の南西端に位置する八重山諸島。八重山諸島の中核をなす石垣島。特殊な自然条件と歴史を背負った石垣島のパイン産業史と移民の歴

史、そして農家の実践的な取り組みに着目することで、パインが地域資源へと転換していったプロセスに迫る。それは社会の中で「周辺化」「他者化」されてきた移民が、地域社会の中で逞しく生き抜き、居場所を築いてきた軌跡でもある。そうしたプロセスからは、パインの生態や栽培過程だけでなく、石垣島の環境や歴史、そして社会史が現れる。さらに、石垣島を越えて広がる沖縄、日本、台湾との複雑な関係が明らかになり、戦前の帝国主義的な植民地支配や戦後の地域開発、グローバル化をめぐる市場経済や貿易自由化の課題も露わになる。本書は、一人ひとりが向き合い、考え続けなければならない社会の多様性やダイナミズムの議論にも通じる一冊となっている。

(行政政策学類／廣本 由香)

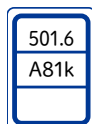
著作資料のご寄贈のお願い

先生方からご寄贈いただいた資料は、新館2Fの「福島大学教員著作物コーナー」等に配架され、本学の貴重な資料として永く保存し、広く学生や地域の方にもご利用いただいております。著作物のご寄贈について、ご協力をお願いいたします。



カーボンニュートラル 社会実現のための 資源・エネルギー学

浅田隆志,
佐藤理夫著
共立出版, 2023.10



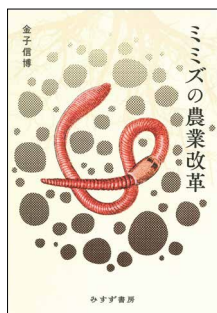
資料ID: 123015812

本書はカーボンニュートラル社会実現のために必要な資源・エネルギーに関する基礎知識や技術について幅広くコンパクトにまとめたものである。資源問題、地球環境問題、エネルギー事情、化石資源に関する基礎知識や各種エネ

ギー変換技術について解説している。エネルギーに関する技術的な基礎に留まらず、最新の統計データやCOP等の国際的な取組状況も含んでいる。さらに、これからのエネルギーとして重要な再生可能エネルギーや水素エネルギー等の最近の注目分野についても基礎事項から実例まで取り上げている。

本書は、特定の技術分野のみを深く書いた「技術の専門書」ではない。理系大学生にとっては特定の技術を深く学ぶ前の入門書として、文系大学生にとっては、一部の章は難易度が高いものの、エネルギーを語る上での基礎知識を学ぶための入門書として役立てていただきたい。本書が、将来のエネルギーのあり方を考える一助になれば幸いである。

(共生システム理工学類/浅田 隆志・佐藤 理夫)



ミズの農業改革

金子信博著
みすず書房, 2023.12



資料ID: 124011410

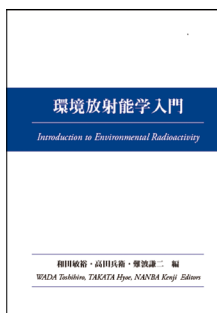
本書は、森林土壌にすむ土壌動物の生態から研究生活を始めた著者が、なぜ農地では耕さないほうがよいと思うようになったかをミズを狂言回しとしながら解説したものである。

自然な土のしくみを考えると、地面が見えている状態は

異常であり、何からの植物が必ず育ち地面を植物か落ち葉が覆っている。根は光合成産物を土にまんべんなく行き渡らせるためには理想的なくみだ。光合成産物はすべての従属栄養生物の餌であり、根のおかげで土の生物が生きていくためのエネルギーが得られる。ミズをはじめとして土壌の食物網はそのエネルギーを使って最終的に肥料分を植物が根から利用可能な状態にしてくれる。皮肉なことに耕うんし、除草して地面が見えるから、また新たに草が生える。

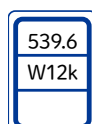
耕さない農法への転換はリジェネラティブ農法と呼ばれる世界的な潮流であるが、リジェネラティブ農法にも除草剤を多用する農法と緑肥を活用し除草剤を使わない農法の2種類あり、どちらを選ぶかの岐路に来ている。日本は大きく立ち遅れている。

(食農学類/金子 信博)



環境放射能学入門 = Introduction to Environmental Radioactivity

和田敏裕, 高田兵衛,
難波謙二編
環境放射能研究所,
2024.2



資料ID: 123063002

本書は、福島大学の基盤教育科目「環境放射能学入門」を担当する福島大学環境放射能研究所(IER)の教員を中心に執筆されました。11章5コラム255ページからなる本書は、IERのこれまでの研究成果に基づいた内容を幅広く示して

おり、福島第一原発事故後の環境放射能動態に関する科学的知見の理解に資することが期待されます。

放射性物質の基本的な性質はもちろんのこと、放射性物質の大気中や海洋での計測や拡散モデル、土壌や森林、作物、魚類や海洋環境での動態、野生生物への放射線影響、チオールペリとの比較など、最先端の研究が網羅されています。また、極めて低濃度の環境試料を測定する放射性物質の分析技術が、環境問題や気候変動、生態学といった多様な分野で活用されていることも理解できるでしょう。本書は、幅広い分野を対象とする環境放射能学の待望の入門書であると同時に、現場から発信される本分野における専門書としても画期的なものと確信されます。

(環境放射能研究所/和田 敏裕)

カウンターの内側から

共生システム理工学研究科 2年 岩本 友樹

周囲の人が読んでいる本に目がとまった経験はありますか？私がカウンターの内側に来てから早くも3年の月日が流れようとしています。最初の頃は業務を覚えることで手一杯でしたが慣れてくると余裕がでてくるもので、様々なことに目がとまるようになってきました。

カウンターの内側にいると利用者が貸出・返却する本から色々なものが見えてきます。本は読んでいる人の背景を教えてください。例えば、単語帳を開いている人がいたら言語の勉強をしているのかな、学生かなと思うことでしょう。さらに、それが電車の中なら勉強熱心だとその人の性格までもが想起させられます。

カウンター業務で返却された本を確認していると思わず本の内容が気になり手が止まりそうになることがあります。「隣の芝生は青く見える」とは少々違うような気もしますが自分が今まで全く手に取ったことのない分野の本でもいざ目の前に置かれると興味を惹かれることがあります。しかしながら、今まで手つかずであった本に出会うのは難しく何か理由がなければ自分からその分



野に行きつくことは稀でしょう。

皆さんは本を探すときはある程度探したい本を検索するもしくは分野を決めて置いてある本の中から選ぶと思います。その時、ぜひ目を向ける範囲を広げてみてください。そして、少しでも目にとまった本があれば手に取ってみてください。新たな出会いがあるかもしれませんよ。そんな出会いができるのはたくさん本が分野ごとに並んでいる図書館だからこそだと思います。新たな出会いの場としてぜひ図書館に訪れてみてはいかがでしょうか。

福島大学附属図書館報

書 燈

発行日／2025年3月

発行元／福島大学附属図書館
〒960-1293 福島県福島市金谷川1番地
tel.024-548-8087

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>



福島大学附属図書館報「書燈」第58号 目次

● 巻頭言 「高閣に束ぬ（こうかくにつかぬ）」	大橋 弘範	1
● 故 吉原泰助 名誉教授の蔵書受入について	附属図書館	2
● 農山漁村文化協会図書館の蔵書受入について	附属図書館	3
● 図書館のホームページをリニューアルしました	附属図書館	4
● 福島大学校友会からのご支援による資料整備について	附属図書館	4
● 自動貸出返却装置（ABC-T1s）が利用できるようになりました	附属図書館	4
● 書庫の集密書架の修繕が完了しました	附属図書館	5
● 図書館でイベント開催・展示ができます！	附属図書館	5
● 学内教員著作寄贈図書を紹介		
『ロマン主義的感性論の展開：ノヴァーリスとその時代、そしてその先へ』	高橋 優	6
『入管を問う：現代日本における移民の収容と抵抗』	岸見 太一	6
『パインと移民：沖縄・石垣島のパインナブルをめぐる「植民地化」と「土着化」のモノグラフ』	廣本 由香	6
『カーボンニュートラル社会実現のための資源・エネルギー学』	浅田 隆志・佐藤 理夫	7
『ミズの農業改革』	金子 信博	7
『環境放射能学入門 = Introduction to Environmental Radioactivity』	和田 敏裕	7
● カウンターの内側から	岩本 友樹	8

編集
後記

2024年度は、寄贈いただいた貴重資料のお披露目や、受入できなかった農文協資料の譲渡会など、特徴的なイベントを実施することができました。また、ホームページの改修や書架の修繕については、皆様に便利にお使いいただけることを願っていますが、ひそかに業務面でも利便性が向上しました。今後も、快適に図書館をご利用いただけるよう改善や企画を進め、次号以降でご報告していきたいと思っています。